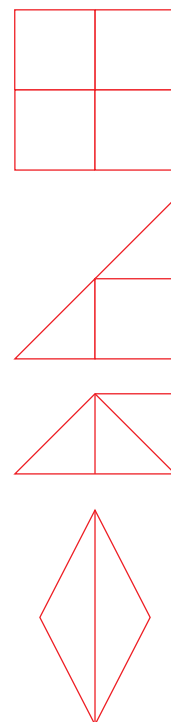
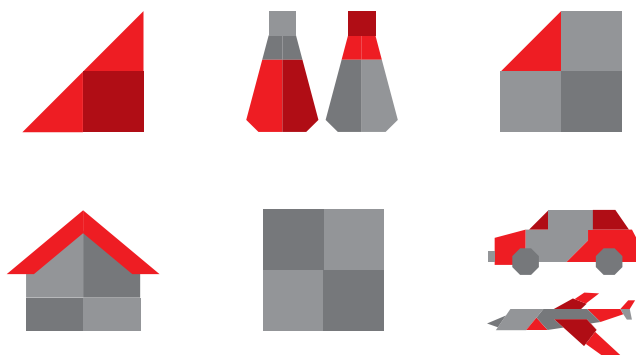


株主・投資家の皆様へ

2022年12月期 報告書

〈 2022年4月1日～2022年12月31日 〉



Transform the future.

独創力で未来をつくる。

P1 株主・投資家の皆様へ

P5 Topics

P3 連結業績ハイライト

P7 企業情報





独創力で、 “一歩先行く提案”型企業へ

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、2022年12月期(2022年4月1日～2022年12月31日)における事業の概況と業績につきまして、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 渡邊 充範

■ 2022年12月期の業績について

当社グループは、当期より事業年度の末日を3月31日から12月31日に変更しております。従いまして、経過期間である当連結会計年度は、9カ月間を対象期間とした変則決算となっております。このため、前年比較にあたっては、前年度の実績を当年度と同一期間に調整しております。

当連結会計年度におけるわが国経済は、経済活動の制限緩和、正常化に伴い、個人消費が持ち直しの動きを見せる等、緩やかな回復基調で推移しておりますが、年末に日本銀行が長期金利操作の変動幅を拡大し、為替、金利環境が大きく変動する等、不確実性が高まっています。海外経済は、欧米を中心に急激な物価上昇や、これを受けた金融引き締めが続く、また中国経済も感染再拡大による景気減速が鮮明になりつつあり、当社を取巻く経営環境は一層厳しさを増しております。

このような状況下、当連結会計年度の当社グループの売上高は前年同一期間比18.7%増収の465億66百万円、営業利益は同4.9%増益の64億62百万円、経常利益は同8.2%増益の72億70百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同4.2%増益の49億97百万円と、いずれも前年を上回り過去最高を記録しました。為替レートが円安に推移したことや、原材料価格の高騰に対して適切に価格転嫁を進めた結果、輸出版売の採算性が向上いたしました。

■ 長期ビジョン「Challenge 1000」について

2020年4月にスタートした長期ビジョン「Challenge 1000」は、各事業が2030年にありたい姿を描き、そこに至る施策を時系列でスケジュールしていくバックキャスト型型の長期経営計画です。当社グループは企業理念「独創力」のもと、2030年にありたい姿として、「独創力で、

四国化成グループ長期ビジョン Challenge 1000

当社グループは、新たなステージへの飛躍を目指し、2030年を見据えた長期ビジョン「Challenge 1000」を策定。中期経営計画だけでは描き切れなかった長期的な視点から、目指す姿を設定し、飛躍的な成長を実現していきます。



2030年に
ありたい姿

独創力で、“一歩先行く提案”型企業へ

独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界をリードする

“一歩先行く提案”型企業へ」を掲げ、独創的なアイデアで社会課題を解決していく企業となることを目指しています。

Challenge 1000では、長期的視点に立った事業変革方針はもとより、人財づくりや風土づくりといった全社変革方針を策定し、それらの実践による飛躍的な成長を目指します。2030年に達成すべき財務目標として「売上高1,000億円、営業利益150億円、ROE10%以上」を掲げ、その達成や次代を担う新規事業の育成に向けて、設備投資や研究開発投資の積極的な投入を図っていきます。あわせて、ESG（環境・社会・ガバナンス）といった非財務目標の視点も高く持ち、SDGs（持続可能な開発目標）の達成にも取り組んでいます。

こうした取り組みは、良き企業市民として、顧客、従業員、株主、及び社会の各ステークホルダーに貢献していくこととした企業の活動方針「四方よし」に根ざすものです。お客様には「一歩先の価値」を、従業員には「挑戦と成長」を、株主の皆様にはより一層の「利益還元」を、そして社会には「より良い明日」を届けてまいります。例えば社会・地域貢献については、経常利益の1%を上限に社会貢献に活用することを基本に、自治体との連携や地域イベントへの協賛を行っております。

当社は長期ビジョン「Challenge 1000」を達成するにあたり、各事業会社に対して大胆に権限移譲することで、意思決定を迅速化するとともに、生産・販売・開発の機能別組織を垂直的に統合し、組織をさらに一体化・緊密化し、一貫性を持った戦略を遂行すべく2023年1月1日より持株会社体制へ移行し、各事業を分社化、新生四国化成グループとしてスタートを切りました。化学品事業は旧社名を受け継ぎ新しい「四国化成工業株式会社」に、建材事業は「四国化成建材株式会社」、

そして間接部門は「四国化成コーポレートサービス株式会社」と、それぞれの事業会社が発足いたしました。

四国化成の「化成」という言葉にはさまざまな意味がありますが、通常の化学合成の意味以外にも、良い方に改めることや育て導いて成長を遂げさせること、というポジティブな意味があります。75周年を迎えた当社は、100年企業を目指して次の四半世紀も変化し続けます。その一つがホールディングス体制であるご理解いただければ幸いです。

■ 株主還元の基本方針について

企業行動指針「四方よし」の一つである、株主の皆様への還元につきましては、その基本方針として、2030年度に至る長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において「連結業績を基準として、総還元性向50%」を掲げています。

この基本方針に沿って、2022年8月には13億28百万円の自己株式を取得し、配当総額13億75百万円と合わせた総還元額は27億円、総還元性向は54.1%となりました。

2022年12月期の期末配当金につきましては、株主還元基本方針や通期業績見込み、財務状況等に鑑み、2022年4月28日公表の配当予想通り、1株あたり12円に加え、創業75周年の記念配当として1円増配し、1株あたり13円とさせていただきます。

株主・投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年3月

四方よし

当社グループは、価値の提供や貢献の対象として4つのステークホルダーを意識する「四方よし」を企業活動方針に掲げています。

顧客

一歩先の価値を

独創的で最先端の製品・サービスで、新たな価値をご提供いたします

従業員

挑戦と成長を

多様な働き方と挑戦による成長を実感できる環境をつくり、豊かな人生を応援します

株主

利益還元を

連結業績を基準として、総還元性向50%を目指します

社会

より良い明日を

社会課題の解決に貢献し、豊かな生活環境を実現いたします

財務目標 (2029年12月期・連結)

〈売上高〉 1,000億円
〈営業利益〉 150億円
〈ROE〉 10%以上

戦略の柱

事業変革方針
全社変革方針
積極投資
SDGsの達成

長期ビジョン
「Challenge 1000」の詳細につきましては当社ウェブサイトをご覧ください。



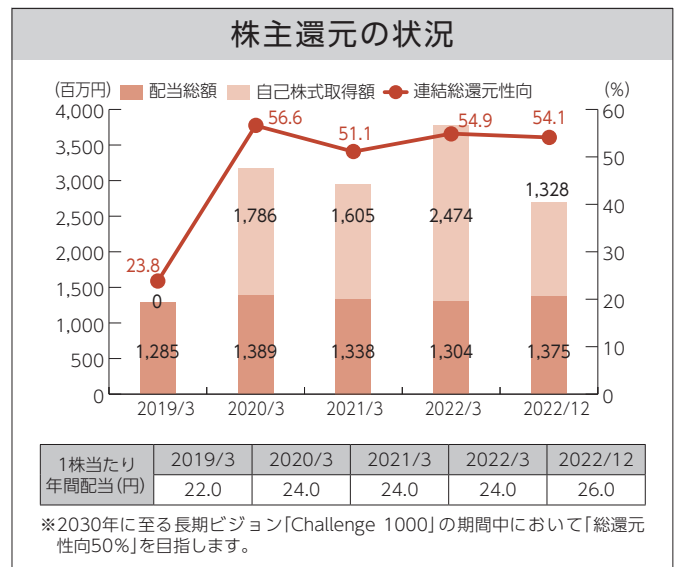
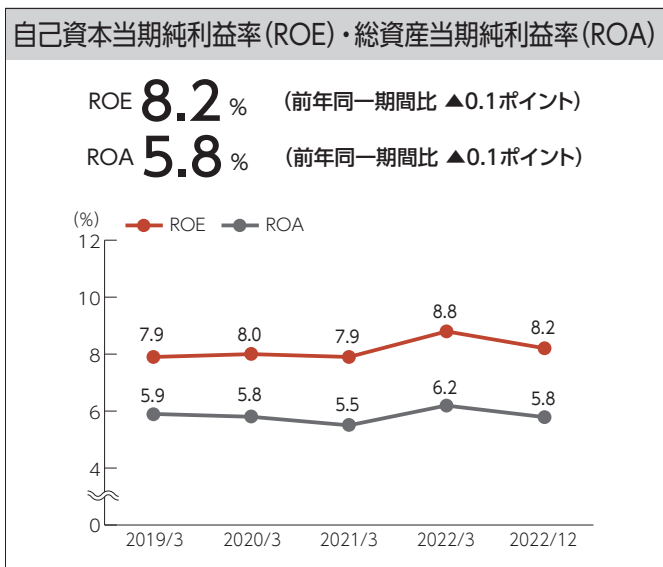
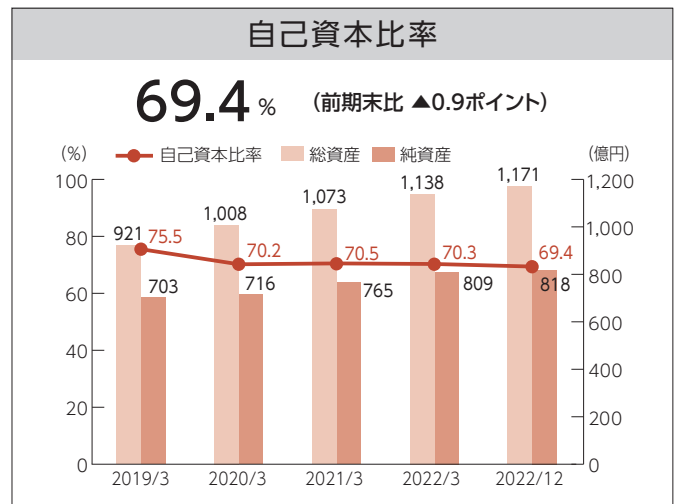
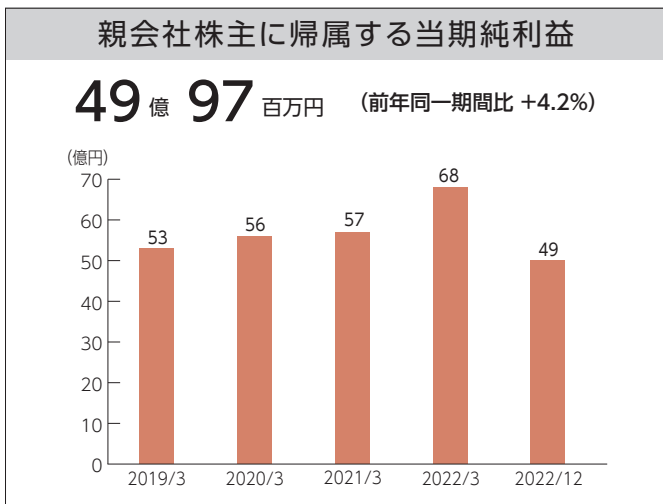
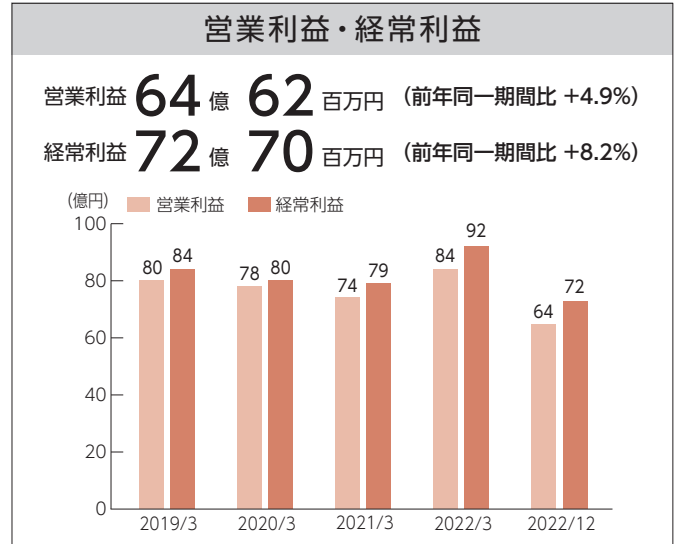
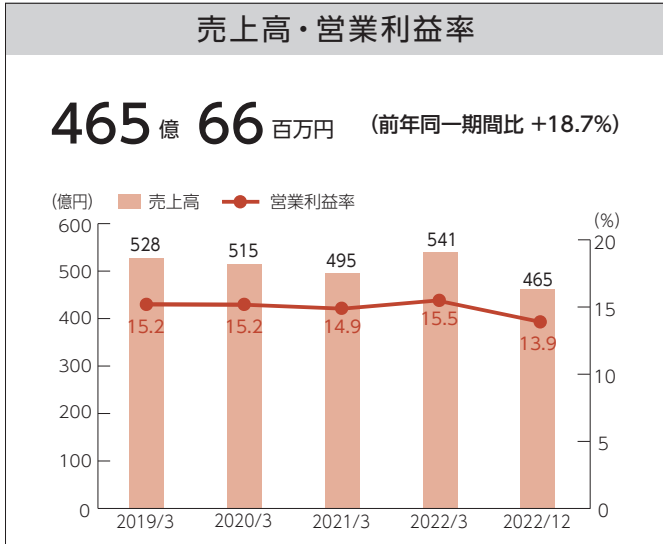
https://www.shikoku.co.jp/ir/management_plan

業績のポイント

※当期より決算期(事業年度の末日)を3月31日から12月31日へ変更しております。当期は決算期変更の経過期間となることから9カ月間の変則決算となっております。

- 前年同一期間比(4月～12月)で売上高及び各段階の利益まで過去最高を記録
- 1株当たりの年間配当は75周年記念配当として2円増配の26円(年間)

※グラフ中の金額は、億円未満を切り捨てて記載しております。



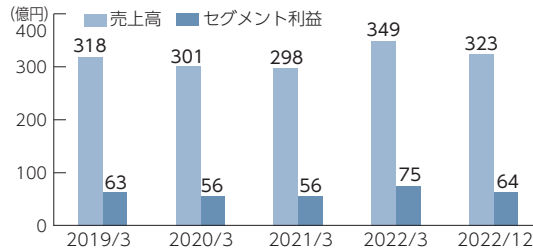
セグメント別事業概況

※当期より決算期(事業年度の末日)を3月31日から12月31日へ変更しております。
当期は決算期変更の経過期間となることから9カ月間の変則決算となっております。

化学品事業

売上高 **323 億 80 百万円**
セグメント利益 **64 億 91 百万円**

業績推移



不溶性硫黄は半導体不足による自動車生産の落ち込みや中国での新型コロナウイルス感染拡大に伴うタイヤ工場稼働の低下により需給の緩みが見られ、販売は低調に推移しました。塩素化イソシアヌル酸は、国内プール薬剤の販売回復があったほか、主力の米国市場でプール市場の活況が続いており、高稼働で生産を続けております。また高騰する資源価格や物流コストの価格転嫁に努めたことで、売上、利益ともに前年を上回りました。ファインケミカルでは、タフエースを中心とする電子化学材料は、上海ロックダウンや半導体市場の調整等を受けて伸び悩みましたが、樹脂改質剤(グリコールウリル誘導体等)の需要増や半導体プロセス材料の新規案件獲得などにより機能材料は前年を上回りました。

この結果、化学品事業の売上高は323億80百万円 前年同一期間比27.0%の増収、セグメント利益は64億91百万円 同13.2%の増益と、いずれも前年を上回りました。

主要製品



無機化成品

- 不溶性硫黄 (ゴム加硫剤)
- 二硫化炭素 (化学繊維レーヨンの原料)
- 中性無水芒硝 (入浴剤の温浴効果促進剤、合成洗剤の洗浄助剤)



有機化成品

- 塩素化イソシアヌル酸 (プール・浄化槽の殺菌消毒剤、船舶バラスト水の塩素処理剤)



ファインケミカル

- 電子化学材料 (プリント配線板向け耐熱型水溶性防錆剤)
- 機能材料 (エポキシ樹脂の硬化剤、樹脂改質剤、半導体プロセス材料)

売上高構成比

化学品事業 **69.5%**

無機化成品 21.6%

有機化成品 31.9%

ファインケミカル 16.0%

エクステリア 26.5%

壁材 2.2%

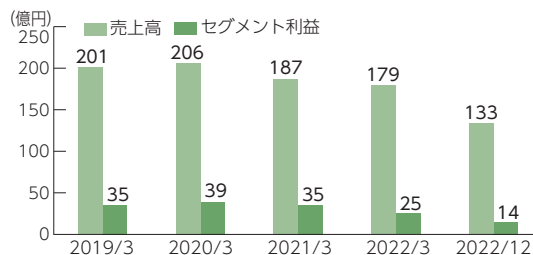
建材事業 **28.7%**

その他 1.8%

建材事業

売上高 **133 億 53 百万円**
セグメント利益 **14 億 90 百万円**

業績推移



新設住宅着工戸数は持家の着工が弱い動きを続けており、壁材、エクステリアともに需要は低調に推移しましたが、当期4月に実施した価格改定が浸透し、売上高は前年を上回りました。一方、原材料費の急激な上昇は価格改定で吸収しきれず、利益面では前年を下回りました。

この結果、建材事業の売上高は133億53百万円 前年同一期間比4.5%の増収、セグメント利益は14億90百万円 同12.0%の減益となりました。

主要製品



エクステリア

- 住宅エクステリア (門扉、フェンス、カーポート、アコーディオン門扉、テラス、アルミシステム塀)



景観エクステリア

- 景観エクステリア (大型門扉、大型フェンス、通路用シェルター、自転車置場、ゴミ集積庫、屋上緑化等)



壁材

- 内装材、外装材、舗装材

Topics 1

「第75回 香川丸亀国際ハーフマラソン大会」を特別協賛 大会初の給食所と新記録賞を提供、盛り上げの一助に



当社は、2023年2月4日(土)、5日(日)に地元香川県丸亀市で開催された「第75回 香川丸亀国際ハーフマラソン大会」を特別協賛企業としてサポートいたしました。75回目を迎えた同大会は3年ぶりの開催とはなりましたが、コロナ禍の困難を乗り越え、大会関係者の皆様のご尽力により無事に終了しました。

5日に行われたメインのハーフマラソンは絶好のコンディションに恵まれ、約6,500人のランナーの皆様が早春の讃岐路を快走。男女ともに大会記録が飛び出す高速レースとなるとともに3年ぶりのレースを楽しむ方など思い思いに大会を堪能されていました。

当社グループは良き企業市民として、顧客、従業員、株主、そして社会に貢献していくこととした「四方よし」を

企業の活動方針に掲げており、社会に「より良い明日」をお届けしたいという願いを込めて、地元で開催される同大会に特別協賛いたしました。大会初となる「給食所」をコース内2カ所に開設し、香川県産のイチゴなどのフルーツとスイーツを提供するなど、社員も運営ボランティアとなり大会の盛り上げの一翼を担いました。

今後も「香川丸亀国際ハーフマラソン大会」への協賛活動を通じて当社の思いや姿勢を示し、ブランド認知の向上を図るとともに、地元丸亀市を盛り上げ、飛躍するランナーの皆様を応援し続けていきます。

大会公式HP

<https://www.km-half.com/>



Topics 2

新規事業「骨付鳥」の販売を開始

グループ会社のシコク・フーズ商事(株)は、2023年2月より新規事業として香川県丸亀市骨付鳥の名店「藤ちゃん」監修のもと、骨付鳥「おやわか」のキッチンカーでの移動販売を開始しました。また、同時にECサイトでの販売を開始し、本場香川の名物を日本全国にお届けいたします。

長期ビジョン「Challenge 1000」のもと、新領域・新業態に進出すべく、地元・丸亀市のご当地グルメである骨付鳥に着目。昭和49(1974)年創業の老舗店「藤ちゃん」に全面協力をいただき、お店の味を継承し、鳥本来のうまみを生かした塩・胡椒・ニンニクの伝統の味付けで焼き上げています。国産の鶏もも肉を丸ごと一本焼き上げた「おやわか」は、しっかりとした歯ごたえと味わいの肉質で噛めば噛むほどうまみがあふれる親鳥と、皮はパリッと芳ばしく中はふっくらジューシーな若鳥の2種類をご用意しています。

骨付鳥「おやわか」の販売を通じて、地元丸亀の魅力を全国に発信し、シコク・フーズ商事(株)の2030年にありたい姿「真心こめたサービスで人とヒトの笑顔と輪を広げる」を実現すべく、事業拡大に取り組んでまいります。



おやわか骨付鳥
特設サイト



Topics 3

株主優待制度を拡充いたしました

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの株主様に中長期的に当社株式を保有していただくために、株主優待制度を変更(拡充)することといたしました。

2022年12月31日現在、当社株式を100株以上1,000株未満保有の株主様を対象に自社製品(1,500円相当)を、1,000株以上保有の株主様を対象に自社製品(1,500円相当)及び地元香川の特産品を掲載したオリジナルカタログより1商品(5,000円相当)を贈呈いたします。



2022年度の自社製品は「WASHMANIA 洗濯槽クリーナー」



オリジナルカタログ

◆ **会社概要**

会社設立	1947年10月10日
本社所在地	香川県丸亀市土器町東八丁目537番地1
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
資本金	68億67百万円
グループ従業員数	1,223名

◆ **役員** (2023年3月29日現在)

代表取締役社長	渡邊 充 範
専務取締役	松原 純
常務取締役	眞鍋 宣訓
常務取締役	濱崎 誠
取締役	池田 雄一
取締役	安藤 慶明
社外取締役	原田 秀逸
社外取締役	馬詰 憲彦
社外取締役	古澤 実
社外取締役	森 清
常勤監査役	片山 和彦
常勤監査役	田邊 賢次
社外監査役	西原 孝治
社外監査役	籠池 信宏

◆ **株主メモ**

- **事業年度** 1月1日から12月31日まで*
- **定時株主総会** 毎年3月
- **基準日** 定時株主総会 12月31日
 期末配当 12月31日
 中間配当 6月30日
 このほか必要ある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
 ※2022年12月期の事業年度は
 2022年4月1日から12月31日までの9カ月
- **株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関** 三井住友信託銀行株式会社
- **株主名簿管理人事務取扱場所** 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- **郵便物送付先および照会先** 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 フリーダイヤル 0120-782-031
 (受付時間 9:00~17:00 土・日・祝日等を除く)
- **公告方法** 当社のホームページに電子公告として掲載いたします。
<https://www.shikoku.co.jp>
 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

◆ **株主優待制度について**

2022年12月31日現在における100株以上1,000株未満保有の株主様を対象に自社製品(1,500円相当)を、1,000株以上保有の株主様を対象に自社製品(1,500円相当)及び地元香川県の特産品を掲載したオリジナルカタログより1商品(5,000円相当)を贈呈いたします。2022年度の自社製品は「WASHMANIA 洗濯槽クリーナー」(2袋)をお届けいたします。

◆ **株式の状況**

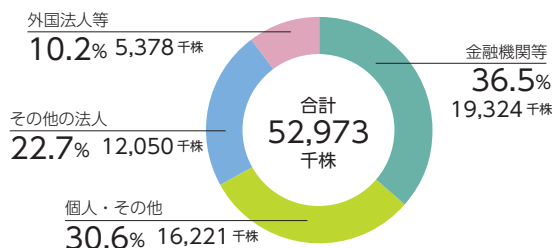
発行可能株式総数	235,850,000株
発行済株式の総数 (自己株式数65,756株を除く)	52,907,807株
株主数	8,272名

◆ **大株主**

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清紡ホールディングス株式会社	5,580	10.54
シコク共栄会	4,558	8.61
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,794	7.17
日本生命保険相互会社	3,295	6.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)	2,640	4.99
株式会社香川銀行	2,500	4.72
株式会社伊予銀行	1,500	2.83
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,462	2.76
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA GENEVA - SEGREG HK IND1 CLT ASSET	1,056	1.99
株式会社三菱UFJ銀行	947	1.79

(注) ● 持株比率は自己株式(65,756株)を控除して計算しております。
 ● 上記自己株式には、株式報酬制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行が保有する当社株式140,275株は含めておりません。
 ● 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)の持株数には、株式会社百十四銀行が自己名義で保有している300千株を含めて記載しております。

◆ **所有者別株式分布状況**



<株式に関する各種手続き>
【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

【未払配当金のお支払について】
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。